

新型コロナウイルス感染拡大防止のための富山大学の活動指針（令和2年10月26日時点）

令和2年8月4日制定

令和2年9月1日改訂

○警戒カテゴリー

カテゴリー	定義
要 注 意	県外において散発的に感染が確認され、今後、感染の拡大のおそれがある場合、又は感染の危険性が大幅に減少した場合。
高 度 警 戒	感染の危険性はあるものの、緊急事態宣言対象地域に指定されておらず、国や自治体からの休校要請がない場合。単発の感染者の発生などによる建物や部局レベルの一時的な閉鎖などの場合。
緊 急 事 態	国の緊急事態宣言などにより、国や自治体による一斉休校要請がある場合、キャンパス内の複数部局で感染者の発生もしくはクラスター感染の発生がある場合、など。

○具体的な活動指針

カテゴリー	レベル	教育活動 (講義・演習、実験・実習・実技)	研究活動 (教員、大学院生、学部卒業研究)	事務業務（附属病院を除く。） (事務職員、技術職員)	会 議	課外活動 (学生)	入構制限 (学生・大学院生)
0	0	通 常					
要 注 意	1	感染防止措置の上 ・講義・演習の原則対面授業の実施、 状況により、遠隔授業の実施可 ・実験・実習・実技の実施	感染防止措置の上 ・研究活動の継続 ・セミナー等の実施	感染防止措置の上 ・通常どおりの勤務	感染防止措置の上 ・対面会議 ・必要に応じてテレビ会議等へ移行	・感染防止措置の上実施	・感染防止に留意して、入構可
高 度 警 戒	2	感染防止措置の上 ・講義・演習の実施（状況により、複 数教室を使用して同時配信する、学生 を2つに分けて隔週で実施するなどの 措置） ・実験・実習・実技の実施 ・遠隔授業の実施可	感染防止措置の上 ・研究活動の継続 ・50人以上が集まるセミナー等につい ては自粛	・時差出勤の推奨	感染防止措置の上 ・テレビ会議等 ・陪席者の縮小	・大学キャンパス内外における屋内で の活動を原則禁止とするが、活動状態 に応じて感染防止措置の上、一部の活 動を許可（必要最小限の時間）	・感染防止に留意して授業・演習・実 験・実習・実技、研究及び許可を受け た課外活動のための入構可
	3	感染防止措置の上 ・講義・演習の対面授業の停止（遠隔 授業のみ） ・実験・実習・実技の実施（人数を限 定の上）	・最小限の研究活動の継続 ・原則在宅での研究活動 ・継続中の実験・研究資源の維持など のため必要な教員以外は入構自粛	・職員の半数以上、在宅勤務	感染防止措置の上 ・テレビ会議等 ・陪席者は最小限	・全面活動停止	・感染防止に留意して実験・実習・実 技のための入構可 ただし、大学滞在は最短時間とする。
緊 急 事 態	4	・遠隔授業のみ実施	・原則、教員の入構禁止 ・在宅での研究活動、ただし安全確保、 研究継続のための必須な資産（生物・精 密機器等）などの維持のための最低限の 教員及び関連職員のみ入構可	・職員の7割から8割以上、在宅勤務	感染防止措置の上 ・テレビ会議等 ※個人情報保護、守秘義務の観点からオ ンラインによる実施が適当でない場合 は、学長が特に認めた場合に限り対面会 議を可とする。	・全面活動停止	・学生、大学院生は、原則、入構禁止
	5	全 面 活 動 停 止（学生は学則第50条第3項による休業）（大学機能維持のために必要な職員のみ出勤。その他は休日。）					

※国の緊急事態宣言や富山県の緊急事態措置等が発出されれば、それらを踏まえて活動レベルを決定するものとする。
 ※附属病院に勤務する教職員(事務部門を含む。)は、診療活動及び地域医療活動に関してこの活動指針の適用を受けない。
 ※学内において感染が確認された場合、その状況に応じて休業措置（全学・キャンパス・部局）等を判断する。

本活動指針の運用について

- 富山県内の感染状況が、「国内における移動制限に関する基準について」の指標①・②のいずれか1つを満たす場合に『活動指針（レベル2）』とする。
- 富山県内の感染状況が、「国内における移動制限に関する基準について」の指標①・②の両方を満たす場合に『活動指針（レベル3）』とする。

参照「国内における移動制限に関する基準について」
 指標①・・・新型コロナウイルス感染者数（1週間）の1日平均感染者数が10人以上となると警戒地域とする。
 指標②・・・1週間の人口10万人当たりの新型コロナウイルス感染者数が2.5人以上となると警戒地域とする。

新型コロナウイルス感染拡大防止のための富山大学の活動指針について

新型コロナウイルス感染症に係る富山大学の教育、研究等に関する活動指針を定め、大学構成員が状況に応じて、適切かつ柔軟に活動する目安を示しました。

10月18日（日）～10月24日（土）の富山県内感染者数により、現在は、警戒カテゴリー（要注意）及びレベル（1）となっています。

構成員が本活動指針を参考にそれぞれの部局において自律的に行動をするようお願いいたします。

本活動指針は二つの部分で構成されています。

一つは、大学全体の状況を示すカテゴリーです。富山大学の危機対応状況を総括的に示すもので、3つのカテゴリーに分けてあります。カテゴリー（要注意）、カテゴリー（高度警戒）、カテゴリー（緊急事態）とし、構成員に注意喚起を促します。

また、具体的な活動指針（レベル）については、他大学の活動基準を参考にこれまで本学で対応したものを加え作成したものです。

これには、教育活動（講義・演習・実験・実習・実技）、研究活動（教員、大学院生、学部卒業研究）、事務業務（附属病院を除く。）（事務職員、技術職員）、会議、課外活動（学生）、入構制限（学生、大学院生）が含まれます。

なお、本活動指針は、附属病院の診療活動及び地域医療活動を除く富山大学全学に適用します。事態は急速に動くこともありますので、警戒カテゴリー、レベルは変わります。必ずホームページ等で確認をお願いします。